



# ENE R2 年間スケジュール

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
①	環境放射能動態解析論		↔										
②	原子力災害環境影響評価論 I				↔								
③	原子力災害環境影響評価論 II				↔								
④	地質災害・地層環境評価論				↔								
⑤	原子力災害特別セミナー				不定期 (年3回予定)								
⑥	環境動態解析学 国内実習								↔				
⑦	国内インターンシップ												
⑧	環境動態解析学 海外実習								↔				
⑨	海外インターンシップ												

科目数に応じて、プログラム独自の修了証を授与します。  
一部のみ履修も可！筑波大学外の方でもご参加いただけます！



講義科目

# 環境放射能動態解析論

放射性核種や放射線の基礎から大気、森林、土壌、河川、海洋などの環境中での動態、モデリング手法について解説します。

(学術院共通専門基盤科目/春AB木1)

回	日程	テーマ	担当
1	4月30日 (木)	環境中の放射性核種 (1) 放射性核種とは?	坂口 綾
2	5月7日 (木)	環境中の放射性核種 (2) 原子力災害の歴史	末木 啓介
3	5月14日 (木)	環境中移行・評価手法 (1) 大気中の放射性物質の移行	青山 道夫
4	5月21日 (木)	環境中移行・評価手法 (2) 海洋での放射性物質の移行	青山 道夫
5	5月28日 (木)	環境中移行・評価手法 (3) 森林中の放射性物質の移行と循環	加藤 弘亮
6	6月4日 (木)	環境中移行・評価手法 (4) 土壌中の放射性物質とその挙動	高橋 純子
7	6月11日 (木)	環境中移行・評価手法 (5) 河川を通じた放射性物質の移行	恩田 裕一
8	6月18日 (木)	環境中移行・評価手法 (6) 生物への放射性物質の移行	山路 恵子
9	6月20日 (土)	モデリング手法 (1) 植物体内での転流	古川 純
10	6月25日 (木)	モデリング手法 (2) 線量評価	羽田野 祐子
11	7月2日 (木)	期末試験	



講義科目

# 原子力災害環境影響評価論 I

日本原子力研究開発機構の講師により、機構が取り組む福島復興事業や廃棄物処理・処分事業について解説します。

(地球科学関連科目 / 春C集中 / 7月6-8日)

回	日程	時限	テーマ	担当
1	7月6日 (月)	1	福島第1原子力発電所事故後のJAEAの取り組み	川瀬 啓一
2	7月6日 (月)	2	放射性セシウムの吸脱着メカニズム	本田 充紀
3	7月6日 (月)	3	高度化する無人モニタリング技術	佐々木 美雪
4	7月6日 (月)	4	放射能マップはこうしてできあがる	阿部 智久
5	7月7日 (火)	1	福島長期環境動態研究	新里 忠史
6	7月7日 (火)	2	環境中の放射性核種分析方法の研究	藤原 健壮
7	7月7日 (火)	3	原子力災害対応ロボットと櫛葉遠隔技術開発センター	山田 大地
8	7月7日 (火)	4	燃料デブリ取り出しに向けた研究	佐藤 一憲
9	7月8日 (水)	1	事故に由来する廃棄物の管理と放射性核種の汚染ふるまい	駒 義和
10	7月8日 (水)	2	放射性廃棄物の処分へ向けた研究	竹内 竜史



講義科目

# 原子力災害環境影響評価論Ⅱ

産総研・量研機構・国環研などの講師により、事故後の環境影響評価や除染対策、環境モニタリングについて解説します。

(地球科学関連科目/ 春C集中/ 7月9-13日)

回	日程	時限	テーマ	担当
1,2	7月9日 (木)	1,2	海洋環境における放射性核種と生物への影響	青野辰雄 量子科学技術研究開発機構
3,4	7月9日 (木)	4,5	(1)低濃度の水中の放射性セシウムの測定手法の開発と標準化 研究から実用化への橋渡しの事例 (2)原子力災害からの環境回復プロセスと課題 除染の費用と効果～県外最終処分まで	保高徹生 産業技術総合研究所
5	7月10日 (金)	1	河川流域・ダム湖における生物利用性放射性セシウムの動態	辻 英樹 国立環境研究所
6	7月10日 (金)	2	淡水魚と水生生物における放射性セシウムの挙動	石井弓美子 国立環境研究所
7,8	7月10日 (金)	4,5	環境放射線モニタリング(平常時から緊急時まで)	木村秀樹 原子力規制庁 六ヶ所原子力規制事務所
9,10	7月13日 (月)	1,2	農地土壌における放射性セシウムの挙動と農業復興への対策	信濃卓郎 北海道大学